

長谷川議員 要望項目一覧

平成30年度9月補正分

要望項目	左 に対する 対応方針等
<p>1 島根原発3号機の新規制基準適合性審査申請に向けた中国電力の原子力規制委員会に対する事前了解への対応姿勢について</p> <p>島根原発3号機を巡っては、原子力規制委員会への新規制基準適合性審査申請の事前了解は、結果的に、稼働容認につながり得るのではないかと懸念している。例えば、新規制基準適合性審査の申請手続き後、松浦松江市長は「今後は安全性についてのみ議論すればよい。原発の必要性などについては不要」と発言されるなど、このまま原子炉稼働が容認されてしまう懸念をぬぐうことはできない。</p> <p>このような中、鳥取県の前了解の回答には「即、容認ではない」と、いわば「かんぬき」がかけてあり、このことは平井知事のやむにやまれない立場の現れと理解したい。</p> <p>島根原発2号機の適合性審査結果も出されていない状況を鑑みれば、保留は生きていると考えられる。同様に、島根原発3号機の稼働判断に対しても、鳥取県の対応は「糠に釘」でないことを信じて、慎重姿勢を貫き通していただきたい。</p>	<p>島根原子力発電所3号機については、5月22日の中国電力からの新規制基準適合性審査申請の事前報告に対し、米子・境港両市、住民、原子力安全顧問、県議会の意見を伺い、まずは国の審査により安全性を確認することとし、8月6日に中国電力に対し、事前報告の可否判断は見送り、最終的な意見は留保する旨を回答するとともに、安全協定の改定を強く申し入れている。</p> <p>また、国（資源エネルギー庁、原子力規制委員会、内閣府（原子力防災））への要望活動を行い、原子力規制委員会に対して、周辺の懸念も踏まえ、安全性を精細かつ厳格に審査した上での安全を第一義とした慎重な判断、住民への丁寧かつ分かりやすい説明、原子力安全対策を電力事業者が責任を持って行うよう審査及び指導すること等を要望している。</p> <p>今後、国の審査を注視し、その説明をこの度と同様の関係者が確認するなど、一層安全を第一義に慎重に対応する。</p>
<p>2 西日本豪雨による河川氾濫の要因分析とそれを踏まえた本県の県土づくりについて</p> <p>西日本豪雨災害では、岡山県内を流れる高梁川支流の小田川の氾濫により、倉敷市では6千戸もの大規模な浸水被害が発生した。被害状況はもとより、氾濫を引き起こした原因と適切な対策についても調査し、その調査結果を、本県内の河川等における浸水被害の発生危険箇所を検証する際に役立てていただきたい。</p> <p>こうした取り組みを通じて、安心して暮らすことのできる、災害に強い県土づくりを引き続き積極的に進めていただきたい。</p>	<p>倉敷市の小田川の氾濫については、現在、国及び岡山県において専門家による調査委員会（高梁川水系小田川堤防調査委員会 委員長：岡山大学大学院 前野教授）で原因究明と対策について検討が行われている。本県においては、これらの検証結果も踏まえ、治水対策に反映させていく。</p>

要望項目	左に対する対応方針等
<p>3 米子・ソウル便の搭乗率向上について</p> <p>米子・ソウル便は、8月下旬から週3往復に減便された後、10月下旬からは再び週6往復に増便されることとなった。インバウンド及びアウトバウンドの両面から搭乗率向上のための対策を進められることは承知しているが、山陰と海外とを結ぶ大きな役割を担う路線であることから、搭乗率向上に全力で取り組み、安定した週6往復運航を確保していただきたい。</p>	<p>平成28年10月のエアソウル就航による提供座席数の増加と航空運賃の低廉化、及び平成29年12月の週3便から週5便への増便による利便性向上により、平成29年度の米子ソウル便の搭乗者数は、平成13年米子ソウル便就航以降、過去最高を記録した。(H28:37,688人→H29:48,621人[前年比29%増]→H30:23,382人[前年同期比71%増])</p> <p>平成30年7月に来県したエアソウルの曹圭英(チョーギョヨン)社長から、平成30年10月28日以降の冬季運航計画で米子ソウル便を週6往復に増便し、搭乗率の目標を80%にするという方針が示されたが、平成30年4月～7月の平均搭乗率は69%であることから、目標搭乗率を達成するためには、アウトバウンド、インバウンド双方の底上げが必要である。</p> <p>このため、インバウンドについては、従来の温泉や食などをテーマにした団体旅行客誘致に加え、若者や個人旅行客の新規需要を取り込むため、エアソウルと連携した特価キャンペーンや韓国ポータルサイト・ネイバー等のSNSを活用した情報発信強化、レンタカーガソリン代助成、個人旅行商品造成のための旅行会社招請ツアー実施などに取り組んでいく。</p> <p>また、アウトバウンドについては、週6往復運航の定着を図るため、増便曜日に出発する新規旅行商品の造成・PR・特価キャンペーン等に取り組む。また、増便により多様なパターンでの旅行が可能となることから、慶州など韓国の世界遺産を巡るツアーや江原道訪問ツアーなどの商品造成を促進するとともに、岡山県や広島県北部等へのPR強化、エアソウル山陰ファンクラブ会員への複数回答常時のキャッシュバック特典付与等の取組により新規利用者・リピーターの拡大を軸とした着実な裾野拡大を図ることとしている。</p> <p>あわせて、国際定期便利用促進協議会など県経済界、観光業界と引き続き連携し、官民一体となって米子ソウル便の利用促進に取り組み、週6往復の運航が安定するように努めていく。</p> <p>【9月補正】国際航空便利用促進事業 2,185千円</p>